

サイエンスカフェの御案内

日時：平成28年9月23日（金）19：00～20：30
場所：文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）
東京都千代田区霞が関3-2-2
主催：日本学術会議、文部科学省
テーマ：被災者の復興感と災害復興 —そして、事前復興学の発想と可能性—
講師：中林 一樹さん 明治大学政治経済学研究科・特任教授 日本災害復興学会会長
ファシリテーター：山川 充夫さん 日本学術会議会員 帝京大学経済学部地域経済学科長・教授
内容：

災害はいつ始まって、いつ終わるのか。災害対策はいつから取り組むべきなのか。自然現象であれ、人為的な事故であれ、その外力が地域に被害を及ぼしたときに災害が始まり、その事態を修復し、被災を回復し、復興が完了したときに、災害は終わる。災害復興とは、災害の最後のステージであるが、最も長い時間を必要とし、費用負担も最も大きい取組である。災害対策とは、発災後に運用する取組であるが、それは事前に準備し、その最も基本である被害の軽減対策は、事前に実施しなければ意味がない。事前の準備も被害軽減の取組もない災害対応は「負け戦」でしかない。災害復興対策も、事前に準備し、できるところから実践しておく“事前復興”の取組が重要になってきている。

高齢社会化・成熟社会化していく21世紀の災害復興とは何か。復興の主体たる被災者の復興とは何か。どのような復興の準備をし、どのように事前に地域社会やまちで取り組み、実装しておくことが、被災者の思いを実現し、被災社会に真に必要な復興まちづくりを可能とするのか。

東日本大震災の津波被災者が、どのように復興を考え、感じ、復興に取り組んでいるのか。「被災者の復興感」調査によると、日常生活の回復、仕事（収入）の確保、住まい再建の見通し、街・地域の復興の動きが「被災者の復興感」を決定付けている。首都直下地震や南海トラフ巨大地震に対して、そのような災害復興を、迅速かつ有効に実践するには、復興対策も事前に準備し、事前に取り組んでいく「事前復興」学の発想とその構築及び実践が不可欠になっている。



【参加方法】

事前申し込みでの受付となります。

「氏名」及び「9月23日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールを sciencecafe@devotion-japan.com あてにお送り下さい

【参加費】 無料 【定員】 30名

【アクセス】

銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分

<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/access/index.htm>